



# Nepal Blind Support Association

## ネパールの視覚障害者を支える会会報

第17号 2007年2月 ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA)

NBSA : <http://nbsa.sakura.ne.jp/>

主内容 : 活動報告/南アジアの構造変化とネパール民主化/ネパールよもやま話/事務局だより

### 生活自立訓練会 Daily Living Skill Training in Sanotimi Campus



← 身だしなみは靴から…。革靴を持っていない人がいるので、順番に友だちの靴を磨きました。

何度も番が回ってきた人はプロ並みに上達。ピカピカに磨きあげました。校内が寒いのでほとんどの訓練を屋外で行いました。



恐怖の髭剃り。でも剃りあがった後は気持ちいい。



アイロンかけも初めて。これ感電しませんか～？



なるほど！ワイシャツはこうやってたむのか。

2007年1月24日と25日：カトマンドゥ盆地のサノティミ・キャンパス寮に暮らす、盲学生を対象に行ったプログラム。長い冬休みの間にぜひ生活自立訓練を受けたいと言う声上がり、基本的な日常生活上の技術を再認識してもらいました。普段行っている作業でも、もうひと工夫すればもっと簡単に、そしてスマートにできるのです。また、社会人としての身なりや動作などを洗練する方法も、習得してもらいました。訓練の項目：手をきれいに洗う方法、歯磨きクリームの扱い、髭剃り、爪切り、身だしなみ、靴磨き、アイロンのかけ方と衣類のたたみ方、金銭管理、サインの仕方、室内の移動、丁寧な挨拶など。

(写真撮影と本誌への掲載はモデルの許可を得ています)

## 活動報告

### ●定例活動

皆様方からの寄付金購入による高速カセットテープダビング機（会報16号既報）が2006年11月15日にカトマンドゥ支部に届けられ、これまでは予約制であった貸し出しが、テープを借りて事務所に来た人に即日希望のテープを手渡しできるようになりました。ダビング機購入のために寄付をお寄せいただいた皆様方に、あらためて厚く御礼申し上げます。しかし、ここ数ヶ月電力不足のためカトマンドゥではしばしば停電になります。そのため録音や編集の仕事が遅れがちになり、ユーザーに迷惑をかけてしまうこともあります。カセットテープ・ライブラリーと月間声のお便りの制作も遅れ気味で、昨年よりテープの製作本数は落ち込んでいる状態です。また、隔月点字マガジンは情報誌としてスタートを切りましたが、内容が難しいなど様々な意見も出ており、今後内容について検討を進めながら、引き続き発行していきます。

### ●その他の事業：

★2006年11月11日：ヒアリング（聴聞会）を開きました。小説を中心としたカセットテープ・ライブラリーを、ユーザーがどのように評価しているかを知るよい機会、大変勉強になりました。当日、カトマンドゥ事務所に30名近い利用者とボランティアが集まり、ネパール式に床に座って自由に討論を行いました。

★12月2日：ボランティアへの感謝祭。日頃お世話になっているボランティアさんやその家族を交えて、ドリケルでピクニックをしました。ヒマラヤが一日中見え、総勢52人が参加した楽しい催しでした。

★12月5日：国際ボランティアデーのパレードに参加。NBSAは平和を訴える横断幕の元に行進しました。最後に女性児童社会福祉省の大臣からパレードへの参加と、日頃の活動に対する感謝状が授与されました。

★12月と1月 ネパールを訪れる旅行者や地元の人々から使用済みの衣類を回収し、寒さの厳しいタライ地方5箇所へ届けました。今年の特徴はタメルの洋服屋や一般市民が多量に衣類を提供してくれたこと。

★2007年1月1日：盲児の親への啓発セミナーをビルガンジで開催しました。ネパール南部タライ地方の都市ビルガンジと周辺の郡から、視力に障がいのある子どもの親を招待し、教育の重要性を訴えるセミナーとネットワーク作りを行いました。当日は視力障がい児の親ばかりでなく、兄弟や親族合わせて30人が参加し予定をはるかに上回り、このセミナーへの関心の高さをうかがわせました。底冷えのする寒い会場でしたが、全員最後まで耐え抜きました。

（写真：選任された親の会代表）



ネパールの視覚障害者を支える会

# NBSAチャリティコンサート & 現地活動報告

日時：平成19年4月28日(土) 13:30(開場) 14:00(開演)～16:20  
場所：かごしま県民交流センター 2階 中ホール

コンサート ソプラノ独唱 八木 まゆみ  
ピアノ伴奏 田中 利絵  
コーラス コール吉野  
女性合唱いしき

NBSA 現地活動報告 渥美 資子  
NBSA 副会長（カトマンドゥ駐在）

## 南アジアの構造変化とネパール民主化

ネパールでは2006年11月21日、政府とマオイストの間で「包括的和平協定」が成立し、和平に向けて大きく前進した。これは直接的にはネパールの内政問題だが、その背景には南アジアの大きな地政学的構造変化がある(拙稿「中印接近とネパール平和構築の可能性」世界週報07.1.16参照)。

南アジアではインドと中国・パキスタンが長らく対立関係にあり、ネパールは格好のパワーゲームの場とされてきたが、見方を変えれば、これは弱小国ネパールにはむしろ望ましい状況であった。特に歴代国王にとっては、中国とパキスタンは、インドおよび国内政党勢力を牽制し、国家統合を維持強化していくための不可欠の外交カードであった。

ところが、その三国の対立がこの数年で大きく緩和した。特に中印の接近はめざましく、03年には「中印全面協力宣言」、06年に入るとナトゥラ峠再開(7月)、胡錦濤主席訪印(11月)と関係改善は大幅に進み、二国間貿易も急増している。改革解放の中国と経済自由化のインドは、ネパールの平和安定にむしろ共通の利益を見るようになったのである。

この中印接近を国王は過小評価し、02年5月議会解散、以後、政党排除を進め、05年2月からは直接統治を始めた。国王は、マオイスト取締りのため少々独裁化しても印米は黙認するし、政党勢力を弾圧してもインド牽制のため中国が介入してくれると期待していたのだろう。ところが、05年11月22日「7政党・マオイスト12項目合意」が成立し、それに基づき06年4月「革命」が始まって、どこも国王支持には回らず、革命成功を印米は歓迎し、中国は容認した。こうして、国王—議会派諸政党—マオイストという権力三角関係が解消され、主要7政党とマオイストが和平交渉の両当事者となったのである。

以上の国際的・国内的構造変化により、国連の積極的な和平関与が可能になった。政党政府とマオイストは、06年8月9日国連に正式に停戦・選挙監視要請を行った。11月21日の「包括的和平協定」は、その流れを受けたものであり、その意味

では、南アジアの地政学的構造変化の結果とあってよいだろう。一方、国連もこの「包括的和平協定」成立を歓迎、12月1日安保理がネパールからの要請を受諾し、平和構築に全面的に協力することになった。

こうして、国連関与の下に和平プロセスが始まり、12月16日暫定憲法案成立、07年1月15日同憲法公布・施行、暫定議会成立、1月18日マオイスト人民政府解散と、遅れはあるものの、ほぼ手順通り進行してきた。

現行暫定憲法の主な規定は次の通り。①ネパールは世俗の包摂的完全民主主義国。②一院制暫定議会、330議席。③選挙後の制憲議会は425議席、任期2年。④行政権は内閣。軍総司令官も内閣が任命。⑤君主制については制憲議会で決定。また、現在の暫定議会の構成は、 kongress党 85、kongress党(民主派) 48、統一共産党 83、マオイスト 83、国民党 9、その他 22。

こうして暫定憲法体制は発足したが、民主化には難しい課題が少なくない。①政権の安定化。首相権限の制限が議論されているが、これは体制の安定性と二律背反の関係にある。②武器・兵員管理監視。UNMINにより開始されたが、達成は容易ではない。③そして、いま深刻な問題になっているのが民族自治。タイでは、マデシ住民が自治要求運動を開始し、1月中旬以降暴動が拡大、これに押されて、首相は2月初旬、連邦制の導入、タイ議席配分49%などの大幅譲歩の約束をした。マデシ紛争は当面これで鎮静化するかもしれないが、これを見て他の有力民族も同じ要求をする恐れがあり、すでに東部山地にその兆しが見られる。

以上見てきたように、南アジアの地政学的変化に対応したネパール民主化の大きな流れは変わらないだろうが、体制移行にはつねに大きな危険、不安定がつきまとう。これをどう乗り切るかがこれからの課題であり、日本をはじめ国際社会の適切な民主化支援が期待されている。

(谷川昌幸)

## ネパールよもやま話 ① 21世紀に生きるネパールの生き神 クマリ

ネットニュース1月号で簡単なクマリの紹介をしたところ、大変面白い、もっとクマリのことを教えて、という声が届きました。今回はもう少し詳しくクマリの実態に迫ります。

ネパールにはクマリという生き神様がいます。カトマンズ盆地には11人のクマリがいるそうですが、最も重要なのはカトマンズのクマリです。「ロイヤルクマリ」、「王のクマリ」とも呼ばれ、秋のインドラ・ジャートラの祭りでは国王すらもこの少女に頭を下げて祝福を受けます。このクマリこそネパール王国の守護神、王室の守護神なのです。実はクマリはタレジュという女神の乗り物、依代（よりしろ）で、タレジュ女神こそマッラ王朝時代以来ネパールの守護神として崇められている神様です。ではこのタレジュという神様はどんな神様なのでしょうか。タレジュは戦いの神ドゥルガの一化身です。昔から国の存亡を賭けて他国と戦い続けねばならず、そのため戦闘神としての神の加護が必要だったのです。現在でもネパール国軍の部隊旗にはカーリーやバイラブ等の神々がデザインされています。



それでは普通の女の子がどうやってクマリになるのでしょうか。クマリになるためにはいくつもの条件があります。まず初潮の始まる以前の清浄な童女でなければなりません。血のけがれを嫌うからです。そして本人自身の身体的条件として32の条件が満たされていなければなりません。均整のとれた脚、黒い髪、広く上品に整った額などという条件の他に、アヒルのような水かきのある手とか、成人と同じ40本の歯という現実的でない条件もありますが、これらはブッダの身体的特徴と同じだと言われています。そしてカトマンズのバハ（中庭式建築）出身のネワールの仏教徒サキヤ氏族であること、父親は正式な入門式を行った者であること、そして国王と占星学上の相性が良いことが条件です。そして最後の試練としてダサインの八日目に108頭の水牛の生首を見せられても動じない者がクマリとなります。こうして選ばれたクマリは「クマリの館」の中に住み、毎日僧侶の儀式を受けたり謁見者の礼拝を受けたりして一日中厳しく統制された生活が続きます。そしてクマリのあらゆる行為や動きはすべて王宮の主席司祭に報告されます。

歯が抜けたり初潮を迎えたりして血を流すと、神が去った印として交代して新しいクマリが選ばれます。今まで神として崇められていた少女は普通の女の子に戻ります。しかし幼い頃より人々に敬われてきた生活から一変しても急に普通の女の子には戻れず、カルチャーショックを受けます。本人にもまだ神性が残っているので普通の女の子として暮らして行くにはいわゆるリハビリが必要です。また現在は昔と違って教育の遅れという切実な問題もあります。クマリであった期間中は学校教育は一切されていないので読み書きもできません。現在、欧米を中心にクマリ制度は児童虐待であるとの声も出てきています。その妥協点としてクマリに学校教育をという案もあるそうです。昔はクマリになることは名誉でもありましたが、現在では計算的に現実問題を考えると娘をクマリにするのを躊躇するという人も増えています。

現在、王室制度の存続問題に関連して今後このクマリ制度はどうなるのでしょうか。今まで通り国の命運を占う力を持つロイヤルクマリたりえるのでしょうか、それともバクタプルやパタンのような民間信仰としてのローカルクマリになるのでしょうか。（筆述：佐藤喜一）

参考文献：クマリ信仰（M. アレン）、神の乙女クマリ（ビジャイ・マッラ）他

## ネパールよもやま話② 「今は昔」



日本がモノの豊かさのみに目がたって、真の豊かさを忘れかけていた1989年に私は始めてネパールを訪れました。東京ヘレンケラー協会が企画した、日本・ネパール視覚障がい者交流ツアーに参加した時です。今思えば懐かしいようなあのカトマンドゥ飛行場。ホコリとゴミと、どこからでも入りこんでくる異様な風体の自称ポーターたちの群れ。ひたたくるように旅行者の荷物を持ちたがり「1ルピー、1ルピー」とまわりから差し出される黒く細い手…。首にかけたマリーゴールドの匂いだけがいやに鼻につき、カトマンドゥを取り囲んだ雪のある山々と真っ青な空があまりにも対称的でした。

町をバスで走れば、人と牛はそのけ、そのけ、どちらも悠々とのんびり歩いていて、それだけに車は少なく排気ガスなども感じられませんでした。初めてのカトマンドゥ、見るもの、聞くことすべて驚きの連続でどこをどう観光したか定かではないのですが、狭い町並みや崩れかかった建物とおどろおどろしいヒンズーの神々など異文化というものを身にしみて感じました。カトマンドゥではドゥリケルの盲学校を訪れましたが、あいにく学校は休みになっていて、生徒には会えませんでした。彼らの宿舎を見せてもらいその粗末なベッドや薄っぺらな毛布に手を触れ、こんな所に寝ているのだ、とみんな思わず涙ぐんでしまいました。

私がどうしても忘れることのできないのはポカラでの一風景です。1989年ころのポカラは、一時ポカラを有名にしたヒッピーがすっかり影をひそめ素朴な静かな村という感じでした。空港はジャリの滑走路、お粗末な待合室でも飛行機を降り立った時の感動は、何年たっても忘れることなく蘇ってきます。12月というのに桜が咲いていました。まわりをとりまく真っ白なヒマラヤの山々透きとおるような青い空は今までに見たことのない色でした。今では建て替えられすっかり立派な校舎になっているアマルシンハ盲学級は、そのころ実に粗末な掘っ建て小屋同然でした。ちょうど黄昏時で、屋根も壊れている薄暗い

教室で点字の教科書を見て感激し、校庭で生徒たちの演奏してくれる素朴なネパール民謡を聞きました。夕陽は沈みかかり、夕霧がまわりを包み始めます。目の前に聳える山、マチャプチャレが薄紅色に染まり、草原をわたる風は、草の香りと土の匂いを運んできます。子供たちの服装も楽器も粗末でしたが、透き通るような歌声は大地に響いて流れ、なぜか涙が溢れました。人間はやはりあまりにも自然のままの純粋な雰囲気になると、心の中がきれいに洗われて、無垢の感情がほとぼしるのでしょうか。

この時泊まったのは、フィシュテール ロッジでしたが、あのころは渡し場は壊れた階段、何もない広場、そして村人たちが粗末な土産物を並べて商売をしていました。子供たちはサランギを弾いてお客にものをねだっていましたが、後で聞くと恋の唄だったそう。夜になると町は真っ暗になり、星のまたたきが静寂な山と湖をつつみこみました。

その後ポカラは、ホテルやレストランがぞくぞくと立ち並び、ネオンサインがきらめくネパール第一のリゾート地となりました。私はそれを見てこのように思ったことでした。「ネパール国としては、一番の観光地であるポカラの繁栄はいたしかたないでしょう。もうヤメテ、ヤメテと叫ぶのは外国人側からのエゴかもしれません。あの昔の静けさを懐かしむのはノスタルジーにすぎず、心の奥底に大切にしまっておくしかないでしょう」と。

ただ変わらないのは、マチャプチャレ始めアンナプルナの山々、四季それぞれ朝日に映え、夕陽に輝くこの山の姿を眺めて私はしばし流れ行く時を忘れるのです。(菅原温子)



### ウォークマン寄贈式

1月と2月に分けて合計43台のウォークマンを、八王子市の桑都ライオンズクラブから運ばれてきました。当日は村山満代表が一台ずつウォークマンをネパールの視覚障がい学生に手渡し勉強頑張ってください、と励ましの声をかけました。機械類の扱いに慣れていない人が多く、ウォークマンの使い方やメンテナンス方法なども教えました。卒業したら返却してもらい次代の学生に貸す予定です。



### 2000人のネパールの視覚障がい者に白杖を贈ろう！

2005年にスタートしたこのプロジェクトが3月に終了する予定です。日本、台湾、ネパールのロータリークラブの多大な支援を受けて、今ネパールの視覚障がい者は竹の棒や棍棒に代わって金属性の白杖を手にも、堂々と往来を歩いています。長いご声援を送って下さった方々、本当にありがとうございました。

(写真：ネパール国立眼科病院)



## 事務局だより

### 予告 「NBSA 総会」と「NBSA チャリティーコンサートと現地活動報告」

NBSA は来る4月28日(土)、鹿児島市において2007年度総会を行なうとともに午後2時から「NBSA チャリティーコンサートと現地活動報告」を主催します。会員の皆様のご参加をお願いいたします。詳しいことは後日連絡いたします。

### 2006年度会費(6,000円)納入のお願い

NBSA 会計年度(2006年度)も余すところ1ヶ月となりました。2006年度会費未納の方々には会費振込用紙を同封させていただきました。納入後に、この会報を受け取った方はご容赦ください。活動のほとんどが会員の皆様方の個々の会費によるものです。ご協力をお願いいたします。なお2007年度会費は6月発行予定の会報に振込用紙を同封いたしますので、よろしくをお願いいたします。

### 「一緒に語ろう！国際交流・協力団体勉強会」に参加

鹿児島県鹿屋市のアジア・太平洋農村研修センターにおいて、独立行政法人国際協力機構(JICA)九州国際センター主催の「一緒に語ろう！国際交流・協力団体勉強会」が平成19年1月27日から一泊二日で開催され、NBSA 会長上田耕平が参加し、NBSA の活動状況などの報告を行ないました。

Nepal Blind Support Association (NBSA)  
Yoriko Atsumi P.O.Box: 8974 PCN-111 Kathmandu, Nepal  
Tel:977-1-4425-709 E-mail: yorikonepal@hotmail.com

《日本の事務局》  
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町 27-1-1108 上田佳代子  
Tel & Fax : 099-258-6685 E-mail : office@nbsa.sakura.ne.jp  
NBSA HP : <http://nbsa.sakura.ne.jp/>

維持会費：個人会員年間6,000円 / 法人会員年間15,000円

振込先：郵便振替 01790-7-74222 (ネパールの視覚障害者を支える会)